

巻 頭 言



石川県知事 谷本 正憲

石川の魅力・文化の発信と 草の根の国際交流の拡大

近年、グローバル化が進展してきており、人、モノ、情報が国境を越えて行き交い、観光や産業などさまざまな分野での交流が活発になっています。

改めて申し上げるまでもなく、国際交流の基本は「人と人との交流」であり、直接、顔を合わせてこそ、お互いを理解し合い、信頼の絆を深めることができます。世界のさまざまな価値観や習慣を持つ人々への理解を深め、ともに生きる社会をつくるためには、草の根レベルの国際交流がこれまで以上に重要になっていくと思います。

石川県では、海外の大学生等を対象に単に日本語を学ぶだけではなく、ホームステイをしながら日本文化を体験してもらう、本県独自の国際交流事業「石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム (IJSP)」を実施しています。

このプログラムでは、日本語の学習に加え、茶道や金箔貼り、和太鼓体験などの充実した日本文化体験や、一般家庭でのホームステイにより日本語の実践と日本人の日常の生活を体験することができます。昭和62年のプログラム開始以来、これまでに27か国・地域から5,800人を超える研修生を受け入れ、米国のプリンストン大学やイタリアのミラノ大学など世界18の大学から正式に単位認定されているほか、米国連邦政府職員の日本研修の場としても利用されるなど、諸外国から高い評価をいただいています。

また、平成27年の北陸新幹線の金沢開業を契機に、石川県に対する海外からの注目が高まっており、多くの外国人の皆さんにお越しいただいているほか、本県に在住している外国人が3年連続で過去最多を更新するなど、着実に国際化が進展してきています。

来年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が控えており、海外からの観光客がさらに増加することが見込まれるほか、ホストタウン相手国として県内市町と共同で登録された、ニュージーランド、ブラジル、英国、フランス、カナダ、モザンビーク、アゼルバイジャン、ジョージアの8か国と事前合宿やスポーツの交流のみならず、文化や教育などさまざまな分野で、地域の皆さんと諸外国の皆さんの国と言語を越えた交流が広がっていくものと期待しているところです。

今後とも県を挙げて、特色ある伝統文化や歴史的景観、優れた食文化など、石川の多彩な魅力にさらに磨きをかける取組みを全力で進めるとともに、国際交流活動の充実を図り、地域の活性化につなげていきたいと考えています。